



No.50

UT University Forests News

# 科学の森ニュース

June 10, 2010

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 北海道演習林長 梶幹男先生の最終講義が行われました

2010年3月12日(金)、昨年度をもって定年退職された梶幹男先生の最終講義が農学部8番教室にて行われました。「温暖化と樹木・森林—後氷期気候変動が樹木の分布に及ぼした影響についての研究から—」と題する講義では、シラビソやオオシラビソ等の亜高山帯樹種の垂直分布パターン形成過程を解明した代表的な業績を軸に、演習林における長年の研究活動を聴衆とともに振り返りました。森林科学専攻や生圏システム学専攻、新領域創成科学研究科などの関連専攻の教員、在校生、卒業生など百人以上が来場し、改めて先生に感謝の言葉を伝えるとともに、今後益々のご活躍をお願いしました。



「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

## とよふさ 豊英島にてヒメコマツ植栽イベント開催

### 千葉演習林

房総のヒメコマツ回復計画の一環として、2010年4月18日(日)に千葉県君津市のダム湖にある豊英(とよふさ)島で、房総のヒメコマツ研究グループと、ちば千年の森をつくる会によってヒメコマツの植栽が行われ、千葉演習林産のヒメコマツも植栽されました。房総半島のヒメコマツ個体群は、寒冷期の遺存分布と考えられ、千葉県版レッドデータブックでは最重要保護生物に指定されています。千葉演習林は千葉県・NPOと共に、房総半島におけるヒメコマツ個体群の保全事業を行っています。



ヒメコマツの苗木を植栽する参加者

## 大温室、源泉<sup>やぐら</sup>櫓の改修工事の竣工

### 樹芸研究所

老朽化のため改修工事を行っていた大温室と源泉櫓の工事が竣工しました。

大温室は、鉄製からアルミ製に改修され、内部に体験型施設も取り入れリニューアルしました。



新しくなった源泉櫓

4月には、改修後初めての温室特別公開日を開催し、体験型の温室として機能し始めています。

四代目となる源泉櫓は三代目と同じく、コンクリート製で高さ13.7m、加納事務所より350m離れた川向うにあります。源泉は、毎分200ℓ、100度以上の塩泉で、櫓上のタンクまで自噴させ、そこから高低差を利用して温室や事務所まで引いて暖房や風呂に使っています。

源泉から湯気の立ち上る姿はまさに雄大です。ぜひ一度ご覧ください。

## 愛知演習林リーフレット④ 出版のご案内

### 愛知演習林

このたび、愛知演習林リーフレット④「はげ山が森に戻るまで—東京大学犬山研究林の砂防・緑化のあゆみ—」(定価 税込み 500円)が出版されました。かつては谷筋の一部以外がほぼ“はげ山”であった犬山研究林を中心に、荒廃していた頃の山地の様子と、昭和初期から50年間にわたって行われた砂防・緑化工事について、貴重な写真とともに詳しく紹介しています。

愛知演習林の他、東大生協農学部店、ジュンク堂書店(池袋本店、名古屋店、ロフト名古屋店、札幌店、ネットストア)でも、ご購入いただけます。ぜひ、ご一読ください。



1929(昭和4)年に作られた当時の土壇堤



東京大学附属中等教育学校では3泊4日の宿泊研修を北海道演習林にて1985(昭和60年)から継続して行っています。これまで大麓山登山、湧き水等各所の見学、植樹等を行ってきました。植樹や天然更新木の測定等を行ってきた「附属学校整備林」が、1981(昭和56)年の風害跡地である19林班に存在しています。

現在はこれらの他に、端材や拾ってきた球果等を用いて思い思いに創作する木工体験や、技術職員が普段の仕事で行っている、伐採する木を一本一本選ぶ作業を体験する「選木実習」を行っています。生徒一人一人が用意した関心のあ

るテーマに基づいて、実際に観察したり職員から聞いたりした情報をまとめた発表会も行っています。選木実習は班毎に分かれて技術職員の指導をうけながら、樹種を判別し、太さを測り、設定した木の体積を算出して、そこから伐採量を求めます。その後相談しながら伐採する木を選定し、選んだ理由をみんなに発表します。最後に技術職員が実際に選木して、生徒の選んだ木と比較し講評します。生徒達は時にはササ藪をこぎ、ハチに刺されそうになりながらも、真剣に取り組んでいます。自分たちの選んだ木が職員と一緒にあった時は歓声をあげながら、ここでしか体験できない貴重な時間を過ごします。

**【演習林所属学生岡田桃子さん学部長賞受賞】**  
2010年3月25日(木)、安田講堂にて東京大学の卒業式が行われた後、農学部8番教室にて平成21年度東京大学農学部「学部長賞」の授与式が行われました。学部長賞は、学業成績が極めて優秀な学生に授与されますが、今年度は演習林所属の岡田桃子さんが受賞しました。演習林所属学生の皆さんの活躍に今後とも期待したいところです。



### 演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

#### 3月

- 3~5日 体験ゼミ「雪の森林に学ぶ」<sup>☆</sup>(北海道)
- 7日 公開講座「マツ枯れ跡地に一緒にマツを植えませんか」(愛知)
- 20日 公開講座「森林から得られる燃料、炭」(秩父)
- 23~26日 体験ゼミ「山岳地形の3D表示入門―山に分け入る前に―」<sup>☆</sup>(愛知)

#### 4月

- 3日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう 観察会」<sup>◆</sup>(千葉)
- 14~16日 春の一般公開(千葉)
- 15日 温室特別公開日(樹芸)
- 24日 教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」<sup>◆</sup>(富士)
- 24日 休日公開(田無)

#### 5月

- 2~5日 体験ゼミ「里山の自然をたずねて」<sup>☆</sup>(愛知)
- 5日 休日公開(田無)
- 9日 公開講座「新緑の森を歩こう」(樹芸)
- 14~15日 春の自由見学日(秩父)
- 15, 22日 体験ゼミ「都市の緑のインタープリター養成」<sup>☆</sup>(田無)
- 22~23日 体験ゼミ「豊かな森のスローライフ」<sup>☆</sup>(秩父)
- 22~23日 総合科目「薪ストーブの社会経済学」<sup>☆</sup>(秩父)

#### 6月

- 5~6日 総合科目「ダムと森林」<sup>☆</sup>(愛知)
- 6日 「子ども樹木博士」認定会(田無)

- 6日 体験ゼミ「都市の緑のインタープリター養成」<sup>☆</sup>(田無)
- 12~13日 体験ゼミ「危険生物の知識」①<sup>☆</sup>(秩父)
- 15~16日 利用者説明会<sup>◆</sup>(千葉)
- 19~20日 総合科目「森林-人間系の科学」<sup>☆</sup>(富士)
- 22~25日 北海道東北地区技術職員研修<sup>◆</sup>(北海道)
- 26日 体験ゼミ「危険生物の知識」②<sup>☆</sup>(千葉)
- 29日~7月2日 関東・甲信越地区技術職員研修<sup>◆</sup>(千葉)

#### 7月

- 4日 公開講座「子ども樹木博士」<sup>◆</sup>(樹芸)
- 17~18日 夏の公開講座「東大の森で昆虫採集」(秩父)
- 31日~8月4日 体験ゼミ「森に学ぶ(ふらの)」<sup>☆</sup>(北海道)

#### 8月

- 3~6日 体験ゼミ「関東の秘境でフィールドワーク入門」<sup>☆</sup>(秩父)
- 9~12日 体験ゼミ「夏版 伊豆に学ぶ1」<sup>☆</sup>(樹芸)
- 17~20日 IUFRO 国際会議<sup>◆</sup>(北海道)

#### 9月

- 7~10日 体験ゼミ「フィールドで考える野生動物の保護管理」<sup>☆</sup>(千葉)
- 7~10日 体験ゼミ「森林の保健休養機能～癒しの空間を考える」<sup>☆</sup>(富士)
- 7~11日 体験ゼミ「夏版 伊豆に学ぶ2」<sup>☆</sup>(樹芸)
- 13~16日 体験ゼミ「北海道の自然環境と森づくり」<sup>☆</sup>(北海道)
- 27~30日 体験ゼミ「森に学ぶ(伊豆)薪炭林を満喫しよう！」<sup>☆</sup>(樹芸)

凡例・・・無印:一般向け ☆:学生向け ◆:その他

## 科学の森の動植物紹介

### ツタウルシ

ウルシ科ウルシ属

学名：*Rhus ambigua*

富士演習林

富士演習林に来る皆さんに必ず覚えてもらう植物にツタウルシがあります。ラッコール、ウルシオールなどアレルギー性のかぶれを引き起こす物質（厳密には毒ではありません）を含みます。ウルシ類中もっとも作用が強く、近くを通っただけでかぶれる人もいます。春先は特にかぶれ被害を受けやすいそうです。かぶれはある程度の日数が経過してから激化するようです（写真左）。三つ葉（3出複葉）のつる性植物を見たら疑う必要があります。道沿いなどでは除去するようにしていますが、紅葉がきれいなので景観を重視する富士演習林には痛し痒しの存在です（写真右）。



## 名所・名物案内

### 樹芸研名物「伊豆ゼミ」

樹芸研究所

僕は樹芸研究所、演習林7兄弟の末弟です。兄たちには樹芸研とか呼ばれています。今日は名物「伊豆ゼミ」を紹介します。「伊豆ゼミ」とは、僕が本気で取り組んでいる教養学部前期課程学生を対象とする主題科目全学体験ゼミを学生が呼ぶ愛称です。'06年度冬学期に初回「伊豆に学ぶ」を実施。'07年度夏学期の「夏版伊豆に学ぶ」は初回ゼミ実施前に企画しているので、いわば双子のようなゼミです。昨年度冬学期までに通算14回開講し、既に500人の学生が受講しました。昨年度末には3泊の実物大の大同窓会も催されました。伊豆ゼミは主題科目ならではの「テーマ性」に演習林の組織力を練り込んであり、断片的な体験のてんこ盛りではなく、むしろ品数を絞り「連続性」を重視します。また、ゼミのどこかで必ず「いきもの」を食べ、どこかで必ず「火」を遣い、どこかで必ず「力」を和し、どこかで必ず「対話」することも特徴と言えましょう。それらは「生きる」ことの原体験であり、人間が「社会」を営むことを見つめ直すことに「繋がる」。樹芸研の分掌体制や組織力も、学生には良い教材となっていて、「ゼミ実施体制に感動した」や「組織力を意識できた」といったコメントも寄せられます。最後に、僕が伊豆ゼミに本気で取り組めるのは、兄さん演習林が人的物的支援を惜しまず応援してくれるからです。兄さん方、いつもありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。そのご恩に報いるため、僕は次の「温室版」ゼミを早く紹介できるよう頑張ります。



竹の切り出しから自分達で行う川床作り

## 科学の森ニュース (UT University Forests News) 第50号 (No.50)

発行日 平成22年6月10日

発行人 白石則彦

編集人 石橋整司

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2008@uf.a.u-tokyo.ac.jp